

さいたま市長 8月定例記者会見

平成29年8月31日（木曜日）

午後2時00分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の東京新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 東京新聞 幹事社の東京新聞です。お願いします。  
それでは、本日の発表について市長からお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
まず初めに、大変悲しい出来事について触れなければなりません。先日市内の認可保育園のプールで園児が亡くなるという痛ましい事故がございました。亡くなられたお子様とご家族の皆様にご心から哀悼の意を表したいと思っております。子供の命を育むべき保育園において亡くなるということはありません。この事故については、現在警察で調査中ですが、さいたま市としても事故原因の検証をしっかりと行い、二度と事故が起らないように再発防止に取り組んでまいりたいと考えております。

### 市長発表：議題1「さいたま市議会9月定例会提出議案について」

それでは、本日の議題に移らせていただきます。本日の議題は、「平成29年9月定例会提出議案」についてでございます。

まず、平成29年9月定例会の日程でございますが、9月6日に開会いたします。提出議案は全部合わせますと32件でございます。内訳としましては、専決処分報告議案が1件、それから予算議案が4件、また決算議案が4件、それから条例議案が7件、また一般議案が6件、道路議案が2件、人事議案が8件でございます。

それでは最初に、予算議案から説明したいと思います。まず、予算議案でございますけれども、一般会計補正予算、それから国民健康保険事業特別会計補正予算、介護保険事業特別会計補正予算、母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計補正予算の4件でございます。補正予算額としては、一般会計として60億8,783万8,000円でございます。また、特別

会計は、国民健康保険事業特別会計で9億7,849万(6,000)円、また介護保険事業特別会計で9億5,424万3,000円、そして母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計で3,735万円、合わせまして19億7,008万9,000円でございます。(補正額の合計は)80億5,792万7,000円となっております。

それでは、特徴についてご説明をさせていただきます。

まず、1つ目は健康・福祉の充実でございます。

(1)としまして、保(査)人材を確保する取組を強化するために、保育士の宿舍の借上げを行う事業者に対する補助金を拡充するものでございます。金額としては、特定教育・保育施設等運営事業で6,135万4,000円でございます。

(2)といたしましては、子ども家庭総合センターの供用開始に伴いまして、指定管理者による管理運営等を実施するための債務負担行為を設定する(仮称)さいたま市子ども総合センター整備事業(管理業務)として、限度額を6億4,865万円、また維持管理業務として限度額9億8,817万1,000円を計上するものでございます。

2つ目は、教育の充実でございます。

まず、(1)が就学援助制度における新入学用品費の支給額の引き上げでございます。これは、小学校教育扶助事業として1,308万5,000円、また中学校教育扶助事業(の一部)として2,504万3,000円を計上してございます。

そして、(2)でございますけれども、これは中学校の入学予定の児童の保護者に対しまして入学前に入学準備金を支給するという事業でございますけれども、4,977万円を計上しております。

3つ目は公共交通の充実でございます。

(1)は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた長距離バスターミナルとして暫定整備を行うために、北袋(町)1丁目土地区画整理事業地内の公共公益施設用地を取得するバス対策事業として57億4,987万9,000円を計上しております。

また、(4)その他といたしまして、(1)は、国及び県等から交付された補助金等について、超過交付分を償還する、臨時福祉給付金(給付事業)

(外) 12の事業に対するものであり、3億7,652万1,000円を償還するものでございます。

(2) が、高収益な作物・栽培体系転換を図る取組を支援するための補助金を交付するものでございます。これは、産地パワーアップ計画に位置づけられました農業者に対しまして、補助金を交付するものでございます。この金額としては1,333万8,000円でございます。

そして、(3) として、消防団の充実強化を図るため、(仮称)新片柳分団車庫建設工事に係る継続費を設定する消防施設等整備事業として4,411万(6,000)円、継続費も合わせますと7,352万7,000円を計上させていただくものでございます。

続きまして、主な条例議案について、「さいたま市屋外広告物条例(の一部を改正する条例)」について説明させていただきます。近年、適切に維持管理されていない屋外広告物が各地で見受けられるようになっており、そのような広告物が落下する事故が発生しており、屋外広告物の安全性の確保がより一層求められています。今回国が定めておりますガイドラインが改正されたことを踏まえまして、条例を改正するものでございます。

その改正内容の1点目でございますけれども、「屋外広告物の安全管理の強化」でございます。広告物の所有者、または占有者にも管理義務があることを明記するほか、屋外広告(土)等の専門的知識を有する者に点検させなければならないこととするものでございます。

また、改正内容の2点目は、「屋外広告物規制の運用の弾力化」でございます。これは、広告料収入を公共の案内図板など公益上必要な施設等の設置・維持管理に充てる広告物においては、通常は広告物の表示が禁止されている地域においても表示することができるようにするものでございます。

## 市長発表：議題2「平成28年度決算の概況について」

続きまして、議題2。「平成28年度の決算の概況について」説明をいたします。

まず、決算議案としては次の4件でございます。1つ目が「平成28年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について」、2つ目としまして「平成28年度水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について」、3点目としましては「平成28年度病院事業会計決算の認定について」、そして

4点目として「平成28年度下水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について」でございます。

まず、一般会計の決算の特徴からご説明をさせていただきます。平成28年度につきましては、市民満足度のさらなる向上を図るために、「総合振興計画」の後期基本計画を推進するとともに、「さいたま市成長戦略」、また新たに策定をいたしました「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を着実に実施してまいりました。

また、「しあわせ倍増プラン2013」、「行財政改革推進プラン2013」の最終年度の総仕上げとしまして、その施策の推進に全力で取り組みを行ってまいりました。特に本市の良さ、あるいは強みでもございます「教育」、「環境」、「健康・スポーツ」といった分野を生かしながら、将来を見据えて、「子育て支援」、「安心・安全」といった施策に重点的に取り組み、より多くの市民が住みやすいと感じていただける都市の実現を目指して進めてまいりました。

その結果、一般会計の決算額としましては、歳入の決算額としては4,608億6,600万円、それから歳出の決算額としては4,511億8,500万円、そして実質収支額としましては23億8,100万円となっております。これらは、さいたま市誕生以来、歳出の決算については最大規模となっております。

続きまして、歳入の特徴について説明をさせていただきます。特に、歳入の根幹をなす市税収入と主な科目について説明をさせていただきます。

まず、市税収入でございますが、前年度比41億8,900万円、1.9%の増で、総額としては2,300億9,100万円となっております。個人市民税は、個人所得及び納税義務者数の増加により増加をしております。また、法人市民税については、税制改正による法人税割の税率引き（下）げの影響により減少しております。また、固定資産税・都市計画税は、家屋の新（増築）による課税対象資産が増加し、また償却資産の新規設備投資の増加によって増加しました。

続きまして、国庫支出金でございますが、総額で744億8,200万円となります。これは、前年と比較をしますと5億2,900万円、0.7%の減となります。これは、子どものための教育・保育給付費負担金は増と

なりましたが、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金、中学校大規模改（造）事業（費）補助金負担金（等）が減となりまして、全体として減少しました。

続きまして、県支出金でございますが、193億500万円でございます。前年度比12億5,200万円の増、6.9%の増加となります。国勢調査委託金は減少となりましたけれども、子どものための教育・保育給付費の負担金、安心こども基金（補助金）の増等によりまして全体として増加をいたしました。

それでは続きまして、歳出についての主な特徴について説明をさせていただきます。

まず、性質別について説明をさせていただきますが、まず義務的経費について、総額で（2,401）億800万円、前年度と比べますと82億100万円、3.5%の増となります。これは、特定教育・保育施設等運営事業、また臨時福祉給付金給付事業の増等によりまして、扶助費が増えたこととなります。また、市債の元金償還の増加などによりまして、公債費が増えております。人件費は8億7,500万円の減少、それから扶助費は64億700万円の増加、公債費は26億6,900万円の増加となります。

続きまして、投資的経費でございます。総額としては586億400万円で、前年度と比べますと33億9,000万円、5.5%の減となります。これは、武蔵浦和駅第3街区市街地再開発事業、また大宮区役所新庁舎整備事業及び地球温暖化対策事業の減少等によりまして、全体として減少いたしました。

続きまして、その他の経費としまして1,524億7,300万円、これは前年度と比較いたしますと16億1,100万円、1.0%の減となります。これは、商店街振興事業、道路維持事業の減少（等）によりまして、全体として減少したこととなります。

続きまして、特別会計の特徴について説明させていただきます。

まず、今回先ほども説明しましたけれども、国民健康保険事業特別会計ほか14会計でございます。14会計の決算をしたところでございます。決算総額といたしましては、前年度比0.8%増の3,214億100万

円でございます。また、歳出の決算額については前年度比0.9%増の3,181億3,300万円、そして実質収支額としては25億1,800万円となっております。

主な特徴でございますけれども、後期高齢者医療事業特別会計で被保険者の増（等）に伴いまして広域連合への納付金が増となりました。また、介護保険事業特別会計では保険給付費が増となりました。また、国民健康保険事業特別会計では被保険者が減となり、保険給付費が減ったことが挙げられます。

続きまして、この決算状況の財政の健全化をあらわす財政健全化判断比率等について、説明いたします。

まず、実質赤字比率、連結実質赤字比率については、いずれも黒字となっております。また、実質公債費比率は前年度と同じで、5.0%となります。

それから、将来負担比率でございますけれども、昨年の9.7%から4.3（ポイント）減りまして5.4%ということで、ここ8年ぐらいで10分の1ぐらいに減少してきております。

全ての健全化判断比率におきまして、法に定められました「早期健全化基準」を大きく下回っておりまして、健全な状況が維持できております。また、資金不足比率についても、10の企業会計でいずれも資金不足は発生していない状況でございます。

続きまして、公営企業会計についてご説明をさせていただきます。

各会計とも経営の健全化と計画的な経営の推進ができたと考えております。その結果でございますけれども、各会計の損益についてでございますが、水道事業の会計については、事業収益としては305億1,000万円、また事業費用としては242億5,400万円、当年度の損益としては62億5,600万円の黒字となりました。これは、水道料金等の収益が増加をして、賃借料あるいは支払利息等の費用が減少したことによりまして、対前年比で9.0%の増となっております。

続きまして、病院事業会計でございます。事業収益につきましては158億9,100万円、それから事業費用としては157億7,100万円、そして当年度損益では1億2,000万円の黒字となっております。

入院収益、外来収益が増収したものの、新病院の開院に向けて人件費等の費用が増加したことなどによりまして、対前年度比で74.5%の減となっております。

続きまして、下水道事業会計についてでございます。事業収益については241億(100)万円、また事業費用については228億7,200万円、そして当年度の損益については12億2,900万円の黒字でございます。下水道使用料等の収益が増加しまして、支払利息等の費用が減少したことによりまして、対前年度比で104.2%の増となりました。

説明については以上でございます。

## 議題2に関する質問

### ○ 東京新聞

ありがとうございます。

それでは、幹事社から1点質問させていただきます。

財政の健全性について質問いたします。今説明あったとおり非常に健全な数字を保っておられると思ひまして、そういった数字が続いているかと思うんですが、来年度以降はどのような見通しを市長は持たれているのか、もしくはどのようにしていきたいと考えておられるのか。これだけ健全ですと、より積極的な投資をしていこうという考えもあるかとは思いますが、そのあたりも含めてご説明をお願いします。

### ○ 市長

将来的な大きな流れで言いますと、現在は人口増等々のこともあって、あるいは企業の積極的な進出もございまして増加傾向にございますが、今後は、やはり10年後ぐらいには人口減少が始まると思います。

また一方で、社会保障関係経費、こういったものが増えていくということもございまして、将来的に持続可能な成長をしていくためには、ある程度積極的な投資ということもこれまで以上に必要ではないかと私自身は考えておりまして、そういう意味では財政状況を鑑みながら、ただし積極的に取り組んでいく方向で財政運営をしていきたいと考えております。

ただ、もちろんバランスというのは重要でありますので、そういった部分も十分考慮しながらということになるかと思ひます。

### ○ 東京新聞

ありがとうございます。

各社、市長の発表に関して質問ありますでしょうか。よろしいですか。

## 幹事社質問：8月27日投開票の埼玉県議会議員補欠選挙について

それでは、幹事社質問に移ります。県議補選について伺います。先日あった、大宮区であった県議補選において、市長の元秘書である藤井健志さんが当選されましたけれども、その結果について、もしくは選挙戦全体を通じて市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

- 市長 これまでの記者会見等でもお話をしましたけれども、大変今回はつらい立場で、本来定数が2であれば、2人当選をしていただきたいという思いで見えておりましたし、また中立的な立場で見守ってございましたけれども、その中で厳しい選挙を勝ち抜いて当選をされました藤井健志さんに対しては、心から祝意を申し上げたいと思います。

また、多くの市民の皆さんから付託を受けたわけでありますから、選挙公約実現に向けて全力で取り組んでいただきたいと思いますし、また県民と県政を結ぶパイプ役としての活躍も大いに期待したいと思っているところでございます。

以上です。

- 東京新聞 ありがとうございます。  
幹事社質問に関して質問はありますでしょうか。

## 幹事社質問に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。  
今の県議補選についてなんですけれども、当選後に藤井さんから何か市長に対して報告ですとか、何かそういうものはございましたでしょうか。
- 市長 私も出張中で、昨日帰ってまいりましたので、今日の午前中に挨拶に来ていただきました。
- 埼玉新聞 どのようなことをおっしゃってましたか。
- 市長 お祝いを申し上げるとともに、本当にたくさんの皆さんにご支持をいただいて当選をさせていただいたので、選挙戦での公約をしっかりと推進し、また県政と県民を結ぶ信頼関係をしっかりと結んで、県政にしっかりと取り組んでほしいということは申し述べさせていただいたところでございます。
- 埼玉新聞 関連してなんですけれども、藤井さんが今回「オール大宮」という団体



を立ち上げて選挙に臨まれたわけですから、市政運営の上で、この「オール大宮」とさいたま市との関係というのは、どのように考えていらっしゃいますでしょうか。

○ 市 長 「オール大宮」自体のことは、よくわかりませんが、いずれにしても、市政と県政、まちづくりをしていく上でも、さまざまな施策を行っていく上でも、県政のいろいろなご支援やバックアップあるいは連携が当然必要になるかと思っておりますので、そういう意味では市政と、また県政をしっかりとつないでいただく役割を果たしていただきたいと思っております。

○ 東京新聞 幹事社質問の関連、ほかにありますでしょうか。よろしいですか。それでは、そのほかに質問がある社をお願いします。

### その他：認可保育園のプール事故について

○ 読売新聞 読売新聞と申します。

プール事故の関係なんですけれども、8月25日に現場で確認されたりですとか、聞き取り調査も行われたと。それで、市としては社会福祉審議会の専門分科会で調査をする方針を固められていらっしゃったということなんですけれども、これまでに市として行われてきたこと、あと今後のスケジュールなどありましたら伺いできればと思います。

○ 市 長 冒頭にも申し上げましたけれども、まずこのような痛ましい事故が起こってしまったということについては、市長として悲しい思いでいっぱいでございます。繰り返しになりますけれども、亡くなられたお子様と遺族の皆様にご心から哀悼の意を表したいと思っております。

この事故については、現在警察において調査中でございますけれども、さいたま市としても現場、事故の原因の検証をしっかりと行って、二度と起こらないように再発防止に取り組んでいきたいと考えております。

その中で、これまで取り組んできた経緯でございますけれども、8月24日の木曜日の午後3時(51)分に消防指令センターより危機管理監に通報がございまして、午後5時30分ごろ保育課が現場を確認し、園職員から聞き取りを行っております。

その後、8月25日金曜日の午前3時(43)分にお子様がお亡くなりなされたという報告がございました。また、午前9時半に警察の実況見分の立ち

会を行わせていただきながら、保育課職員が園からの聞き取りを行わせていただいているところでございます。

また、今回の事件によって、子供たち、あるいは保育士の皆さんへの影響もございますので、市としては応援保育士を派遣させていただいて、できるだけ速やかに平常に戻れるように、私たちとしてもできる限りの応援をしようとは取り組んでいるところでございます。

今後警察の捜査といったものもございまして、またあわせて市独自でもそういった調査をして、しっかり検証して、二度と起こらないという状況にしていけるようにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○ 読売新聞      ありがとうございます。

確認なんですけれども、専門分科会なんですけど、こちらの設置時期はいかがでしょうか。

○ 事務局      設置時期でございますけれども、まだ現在調査中でございますので、その辺は未定でございます。なお、設置につきましては、既に平成29年2月議会におきまして社会福祉審議会の下部組織であります「特定教育・保育施設等重大事故検証専門分科会」を設置しておりまして、そこで審議をしていくことになろうかと思っております。

○ 読売新聞      確認なんですけれども、既に設置されているものに付随して今回の問題も一緒に調査をしていくという理解でよろしいでしょうか。

○ 事務局      既に設置というのは、国の昨年出された事故検証のガイドラインに基づきまして、案件のあるなしにかかわらず設置をしたものでございまして、今回この事故を受けまして、今回初めてこの専門分科会で審議をお願いしていくという流れになっております。

### その他：トリエンナーレについて

○ 朝日新聞      朝日新聞と申します。

トリエンナーレについて何点か伺いたいと思うんですが、現在第2回目の開催を目指されていると思うんですけれども、時期については未定ということだったかと思うんですが、現時点で第2回の開催時期について、市長はどのようにお考えになっていらっしゃるかというのをまず最初に伺いたいと思います。

○ 市長      開催時期については、まだ今検討している最中でございますが、当然今

年度開催したところから丸3年たつと2019年ということになりますし、翌年には東京オリンピックがありますので、その辺で私たちとしては、この東京オリンピックに向けた文化的なプログラムの一つということで位置づけていただきたいという思いもありますし、そういったところも含めて、総合的に判断をして開催時期については決めていこうということで、今検討を進めているところでございます。

- 朝日新聞 続けてですけれども、その開催時期の決定というのは大体いつぐらいまでになされるべきだと。
- 市長 多分12月以降になってしまうかなと思っております。
- 朝日新聞 続けてですけれども、同じ年に開いた「あいちトリエンナーレ」のほうは、もう既に次回のディレクターを選定して、あそこは3年に1度と決めているので、やっているのですけれども、他の都市とかと比べると、そういう意味では、さいたまの場合開催時期も決まっていないうし、もちろんディレクターも決まっていないうことになるのですけれども、そうするといわゆるスケジュール的な面では、これで間に合うかどうかというあたりは、市長としては特に不安になられたりとか、懸念されていることというのとは特にない。
- 市長 それぞれ逆算もしながら検討をしておりますので、特に間に合わないということにはならないだろうと。間に合うタイミングで決定をして、そして進めていくということになろうかと思っております。
- 朝日新聞 これで最後になりますけれども、いずれにしても1回目と2回目の間の時期ということになると思うんですけれども、2回目につなげていくために、開催年度以外にもこの1回目の成果を生かして、かつもとになっている条例の趣旨を生かして達成させるために、どんな施策が必要だと市長は考えていらっしゃいますでしょうか。
- 市長 現在も例えば、トリエンナーレサポーターになってくださった方々が、自主的な部分もございますけれども、定期的に会合を開いていただいて、例えば次回のそういう芸術祭に向けて何をしたらいいのかとか、あるいは具体的にさまざまな活動を展開していただいています。  
私たちにとっては、一つは1回目の大きなレガシーとして、そういう芸術活動に積極的に取り組んでいく方々がかなり多くいらっしゃって、引き

続き連携であったり協力体制をとれるということでは、やはり1回目から2回目につないでいくという意味でも、大変重要な役割を果たして下さるのではないかと、大いに期待しているところでありますし、また開催年以外にもイベント的にやるべきことなども含めて、今後開催時期が決定していく中で、2回目がより有意義な大会になれるように進めていきたいと思っております。

○ 朝日新聞      サポーターのことなのですけれども、定期的に会合を開かれる、場所は市として確保していると思うんですが、2回目の開催がちゃんと決まっていなこともあって、公的な位置づけとか予算的なサポートと、そこまで大きくはないと認識しているんですが、今後日程とかも決まってきたり、そのあたりもまたお考えになっていくということによろしいですか。

○ 市 長      今後その開催時期と、やること自体が決定をしていく中で、必要な事業の中で位置づけをすることも当然あるかと思えますし、やるべき事業の中で進めていくことになるんだと思えます。

○ 埼玉新聞      埼玉新聞と申します。

トリエンナーレに関連してなんですけれども、今月18日でしたか、市長は札幌国際芸術祭を視察されているかと思えます。今回札幌市では、音楽家の大友良英さん、この方はさいたまトリエンナーレにも参加された方なんですけれども、ゲストディレクターにお迎えして、市民とつくる芸術祭ということでやられているんですけれども、視察された感想ですとか、今後さいたまトリエンナーレを実施する上で参考になったようなこと、何かございますでしょうか。

○ 市 長      まず、札幌国際芸術祭については、今回大友さんがディレクターになられて、市民参加というのをかなり意識した形で行われているというようなこともありまして、1回目の国際芸術祭も見させていただいたので、2回目につないでいく中で、どういうものに変化をするのかということで、大変関心を持って札幌国際芸術祭にお邪魔もさせていただきました。

今後、国際芸術祭が非常に全国で数多く行われておりますので、その中でどのような差別化、あるいは特徴というものをさいたま市としても持っていくか、あるいは今後どのように芸術祭を運営し、また展開していくのかということについて、それを一つ参考にさせていただきたいという思い

で、札幌国際芸術祭のほうにお邪魔しました。特に国際芸術祭の実務を担当されております熊谷事務局長さんと意見交換を行わせていただいたり、あるいは現場もいろいろ見せていただいたところでございます。

そういう意味では、札幌市でも国際芸術祭がたくさん生まれてきている中で、この特徴をどうつけていくのか、あるいは差別化を図っていくのかということでは、大変苦心をされているということをお伺いしてきました。その中で、市民参加ということについて苦労されているということでしたけれども、今回は企画公募という形で募集をされて、5件、作品あるいは企画について公募したそうでございますけれども、100件の応募があったということでありました。

この地元の関係者、あるいはアーティストの方々が積極的に参加できるものにしていこうということで、こういった公募を行ったということでもありますけれども、そういう意味では地域の方々との関連、あるいは参加というものをうまく誘導しながらやっているということについては、一つのやり方として大いに参考になると思ったところでもございます。

また、1回目から2回目が変わっていく組織体制でありますとか運営体制であるとか、そういったことについても、ちょうど1回目を終えて、そして2回目というところで、札幌も同じように1回目、メリットあるいはデメリット、反省点などもいろいろあったかと思っておりますけれども、その中で2回目に移行していく、そういった流れ等についてもお伺いさせていただいたり、あるいは人員体制ということもお話を伺ってきました。

また、やはりこの芸術祭、1回、2回と単発で終わっては、なかなか意味がないんだと。やはり継続的にやっていくことが重要だという認識を札幌の方も持っていらっしゃるって、ただ、それを継続的にやっていくためには、どういう組織体制で運営していったらいいのか。そういう中で、人材の確保、あるいは人材の育成につなげていくのかということについても、意見交換をさせていただきましたけれども、私たちもそういった視点も含めて、この人材を確保する、あるいは育成していくことについても、あわせて検討していくことが必要だという認識を持ったところでございます。

いずれにしても、ほかで行われているいろいろな事例を私たちも参考にさせていただきながら、1回目を終えた後、いろいろな形でよかった点、

あるいは課題になった点などございますので、そういった部分をこれからはしっかりと解消していくためのやり方、体制等々、課題について私たちもきちんと整理しながら、1回目よりいいものにつながっていくように検討をしていくことが必要だということを改めて感じたところでございます。

○ 埼玉新聞 関連してなんですけれども、札幌は滞在して市内観光を楽しんでくださいということを前面に押し出して、今回の芸術祭を開催されているかと思うんですが、そこについては、さいたま市に应用できそうな点というのはいかがでしょうか。

○ 市長 札幌自体も、観光の部分と芸術祭のところはどうリンクしているかというところは、必ずしも十分に把握しているわけではないようでしたけれども、ただ、やはり一番観光客の多い夏場に設定しておりますので、そういう工夫と、やはり比較的人が多くおいでになるすすきのエリアの中でも、今回はあえて展示が行われていたり、あるいは芸術と、食べ物あるいは飲み物などに転化をして、その商業地域の事業者の皆さんと連携をとったりというようなことを積極的にやっているというお話は伺ってきたところで、滞在型の観光という部分では、さいたま市とは違った面もあろうかと思えますけれども、芸術祭だけではなくて、周辺との連携も含めてやっていくことの重要性についても、参考になる部分はあったと思っております。

### その他：北朝鮮のミサイル発射について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。  
北朝鮮のミサイル発射についてお伺いしたいのですけれども、先日北朝鮮がミサイルを発射しまして、日本上空を通過して太平洋に落下したと。東北と北海道ではJアラートも今回使われたということで、さいたまではそれはなかったんですけれども、今回の件をどう受けとめるかということと、一部Jアラートが作動しなかった自治体もあるというふうにお伺いしております。このあたり、さいたま市についてはいかがでしょうか。

○ 市長 まず、この8月27日の弾道ミサイル発射については、本市では直接Jアラートが警報として鳴るということはありませんでしたけれども、幹部職員3名が登庁して、当直職員とともに情報収集に当たったところでござ

います。

私も出張中でありましたけれども、危機管理監からメールを送っていただきまして、特に市への直接的な影響はないということではありましたが、特段の指示についてはしておりませんが、そういった形で対応したところでもあります。

ただ、今後さいたま市が対象地域となった場合についてでありますけれども、本市の自動起動装置が立ち上がって、市内572カ所にある防災行政無線、それと一斉送信システムによって、市のホームページであるとかテレビ埼玉のデータ放送、また登録者への防災行政無線のメール、先般記者会見でもお知らせをしましたが、これで情報発信をすることになっております。こういったことをしっかりとやっていく、市民にしっかりと周知をしていくと。また、それ以後については、本市の国民保護計画に基づいて対処をしていくということになってございます。

市民の皆さんの安全確保ということが優先であると考えておりますので、国そして県と連携しながら、しっかりとした情報提供あるいは市民安全の確保に努めていきたいと考えております。

Jアラートの稼働状況については、今回鳴っておりませんので、今回については何とも申し上げられませんが、定期的にJアラートの訓練についてはやっておりますので、特に問題はなかったと思います。

### その他：GCTC（グローバル・シティ・チームズ・チャレンジ・エキスポ）2017に参加しての所感について

○日刊工業新聞 日刊工業新聞です。

市長はGCTCに参加されたと思うのですが、その点で感想と、どんなことをお話ししたのかということと、勉強になった点を教えてください。

○市長 先日の記者会見でもお話をさせていただきましたが、8月28日にワシントンD. C. で開催されました「グローバル・シティ・チームズ・チャレンジ・エキスポ2017」に参加出席をさせていただきました、「スマートシティさいたまモデル」の構築についてのプレゼンテーションと、トップセールスをしてきたところがございます。

私からお話を申し上げたのは、世界に通じる汎用性の高い「スマートシティさいたまモデル」の実現には、首長の強い意思が必要であるということ。それから、その実現をしていくためには、縦割りの組織ということだけではなくて部局横断的な、各セクションを連携させるということ。それから、自治体だけではなくて民間や大学、あるいは研究機関との強い連携が最も必要であるということを訴えるとともに、やっている内容についてお知らせをしてきたところであります。

持ち時間10分ぐらいでしたけれども、英語での急遽のスピーチでありましたので、苦勞しながら何とか12分スピーチさせていただきました。終わった後、何人かの方々から駆け寄ってきていただいて、ぜひ協力して連携して何かをやりたいということ言ってくださった方がいらっしたり、あるいは別の組織の方だと思いますけれども、来年の時期、また違うこういったスマートシティの会議があるので、ぜひ発表してほしいというご要請をいただいたりしたところであります。

いずれにしても、大変注目もしていただいて、大変有意義な会議であったと思っておりますし、それぞれの地域でいろいろな取り組みがなされているということについても、改めて私自身も認識したところでございますので、今後このGCTCも含めて、いろいろな自治体と情報共有をしながら、スマートシティがさらに世界的に進んでいくための協力、あるいはそのための発信をしっかりとしていきたいと思っておりますのでございます。

また、今回はGCTCへの参加もありましたけれども、あわせて今年の世界盆栽大会もあった関係もあって、国立盆栽樹木園にもお邪魔をしてきました。今、国際盆栽アカデミーを設置していますが、数年後に外国人向けの人材育成なども行おうということを現在検討しておりますので、そういう意味で具体的な意見交換もさせていただきました。

今後、そういった組織などとも連携ができるような調整も行っていただければと思ったところでございます。

○ 東京新聞

ほかによろしいでしょうか。

それでは以上で質問を終わります。

○ 進 行

以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。



なお、次回の開催は9月21日、13時半を予定しておりますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。

午後2時47分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。